

# オーストラリアの地理学

堤 純\*\*

## Geography in Australia

Jun TSUTSUMI\*\*

### Abstract

This paper presents an overview of geography in Australia. It answers three main questions. Does the teaching of geography in Australia focus on specific topics? How is geography taught in secondary schools? And, what differences are there in the approaches taken to geography in Australia and Japan.

In Australia, geography is first taught in year five at primary school level. The teaching of geography aims to provide background knowledge that is essential to understand both natural and human elements of the world and how they interrelate. This enables students to better understand the impacts of human beings on natural environments.

The teaching of geography in Australia is more advanced than it is in Japan. According to the website of the Institute of Australian Geographers, geography is taught at 18 of 41 universities in Australia. At these universities, geography programs are supported by a wide range of resources and include specialized research groups such as physical geography, GIS, remote sensing, and human geography. Some Australian universities have recently reformed their teaching systems. In this process, geography departments were merged with those of other disciplines, which resulted in a decline in the number of geographers. However, based on the above, geography is widely accepted as an academic subject in Australia.

**Key words** : Australia, geography in universities, GIS, geography skills, geography education

キーワード : オーストラリア, 大学の地理学, 地理情報システム, 地理的スキル, 地理教育

### I. はじめに

オーストラリアの社会と経済はイギリスの影響を強く受けてきた。このことは、オーストラリアの地理学にもおおむねプラスに作用してきたと思われる。オーストラリアには6州と1準州があるが、それぞれの州を代表するような主要大学を訪ねてみると、10名以上の地理学者が所属する学部・学科も決して珍しくない。地理学者は文系

学部にも所属することもあれば、理学（地球科学）系や工学系にも所属する場合もある。また、都市計画や地域計画、持続的（都市）発展（sustainable (city) development）などの分野についても、いわゆる日本の「土木」にあたる分野の研究者よりも、地理学者あるいは地理系の学部のスタッフに関わることも珍しくない。

また、英語圏ということが主因であるが、オーストラリアの大学ではスタッフや博士研究員に、

\* 愛媛大学法文学部人文学科

+ 現所属：筑波大学生命環境系

\* Department of Humanities, Faculty of Law and Letters, Ehime University, Matsuyama, 790-8577, Japan

+ Present address: Graduate School of Life and Environmental Sciences, University of Tsukuba, Tsukuba, 305-8572, Japan

アメリカ、カナダ、ニュージーランドそしてイギリス出身者の多いことが目を引く。英語圏での人材の流動性が高いことはもともとといわれており、オーストラリアの大学の卒業者がアメリカやカナダの大学院に進学して博士の学位を取得したり、中国やインド生まれの研究者がアメリカやカナダで博士の学位を取得した後に、新天地のオーストラリアの大学に職を得るということも稀なことではない。また、これは地理に限ったことではないが、北半球と季節が逆であることを利用して、6か月程度のサバティカル、あるいは研究休暇を、夏のオーストラリア（9～2月頃）で過ごすおもにイギリスからの研究者も珍しい存在ではない。

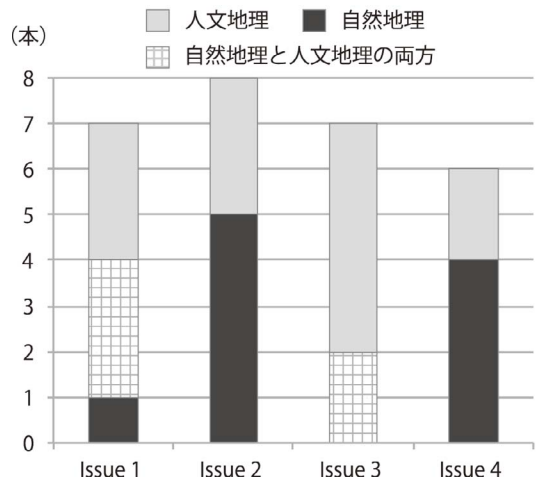
筆者はここ10年近くの間、年に1～2回のペースでオーストラリアの各地に出向き、主としてメルボルンとシドニーの都市社会地理学的な研究に従事してきた。本稿の目的は、オーストラリアの地理学に関して、筆者の目からみた学会組織、大学の様子、そして中学・高校における地理の概要を紹介することである。

## II. オーストラリアの地理学会

オーストラリア全土をカバーする学会組織としては、Institute of Australian Geographers (IAG)がある。この学会は、1963年から機関誌『*Australian Geographical Studies*』（1年に4冊）を刊行してきたが、2005年（Volume 43）以降から機関誌名を『*Geographical Research*』へと変更した。この学会は自然地理学と人文地理学の両方をカバーしており、とくに、自然-人間システムの解明を目的とした自然地理と人文地理の研究交流を促進することが機関誌の目的の一つでもある。

また、IAGよりも古く、由緒ある学会組織としてはGeographical Society of New South Walesがある。1927年に設立されたこの学会は、学会名にニューサウスウェールズという州名が入っているものの、オーストラリア国内に広く会員をもつ全国組織であり、機関誌の『*Australian Geographer*』を1年に4冊刊行している。

オーストラリアの地理学の研究動向を概観する



出典 <http://onlinelibrary.wiley.com/journal/10.1111/> (ISSN) 1745-5871

図1 *Geographical Research* Volume 49の掲載論文のテーマ。

Fig. 1 Topics appearing in *Geographical Research* Volume 49.

ため、『*Geographical Research*』の最新巻 Volume 49（2011年刊）の4冊の機関誌の掲載論文をみると、各号は7本程度の論説（papers）を掲載していることがわかる。各論文の内容を大まかに分けると、1号（自然地理1，自然-人文3，人文地理3編），2号（自然地理5，自然-人文0，人文地理3編），3号（オーストラリアの人口特集号）（自然地理0，自然-人文2，人文地理5編），4号（自然地理4，自然-人文0，人文地理2編）であった（図1）。2011年に掲載された28本の論説のうち、自然地理（生物多様性や海岸地形、河川環境といった自然地理に特化した論文）は10編、人文地理は13編である。一方で、都市化の進展にともなう水資源管理の必要性、都市近郊の豊かな森林内の住宅開発とブッシュファイヤーの危険性、観光開発と生物資源管理の協調の必要性など、自然地理と人文地理にまたがる内容の論文が5編掲載されていることは特筆すべきことであろう。このように、自然-人間の関係に踏み込んだ論文が散見されるのは、厳しい自然環境と隣り合わせで暮らすオーストラリア社会を映す鏡ともいえるだろう。

### III. オーストラリアの大学と地理学

オーストラリアには表1に示すように41の大学がある。それらのうち、18の大学において地理学が教えられている (Institute of Australian Geographers, 2011)。オーストラリアの大学のトップ10にランキングされる大学<sup>1)</sup>にはすべて地理学のカリキュラムがあり、ノーザンテリトリーを除く各州の州都にある主要大学では地理学を学ぶことができる。この表によれば、地理学は多くの大学において文系と理系にまたがり、「地理科学」(Geographical Sciences)や「地理・環境科学」(Geography and Environmental Sciences)、「地理・地域計画」(Geography and Planning)といった名称の講座に所属する例が多いことがみてとれる。地理学が、明らかに伝統的な文系学部、あるいは理系学部とわかる名称の組織に属している例はごくわずかである一方、オーストラリアの大学における地理学は、学際的・総合的な学問として重要性が認知されていると考えられる。

ここでは、オーストラリアの大学のなかから3大学(メルボルン大学、オーストラリア国立大学、モナーシュ大学)をとりあげ、地理学を専攻する場合のカリキュラムの特徴について紹介する。

#### 1) メルボルン大学

メルボルン大学では、地理学はMelbourne School of Land and EnvironmentのDepartment of Resource Management and Geography (DRMG)に所属している (University of Melbourne, 2011)。この学科は2008年の学内改組によって誕生したものであり、Melbourne School of Land and Environmentの地理関係スタッフと文学部所属の地理関係スタッフが合流して1つの学科に再編されたという経緯をもつ。こうした経緯とも関係して、この学科には地理学と資源管理学、園芸学が含まれており、自然科学と社会科学との学際的な領域を意識した研究・教育が進められている。DRMGでは現代社会と環境問題との関連、あるいは人間活動に起因する環境問題について学ぶことを主眼としており、それらの諸問

題の形態が地域別や諸要因別にどのように異なるかについて興味関心が置かれている。とくに、地球上の喫緊の課題が重要視されている。たとえば、都市緑化(緑地と健康問題の関連)、防犯、貧困、都市の水資源管理、地球温暖化による植生や景観への影響、社会と政策・気候科学との相互作用、政治経済学(political ecology)、鉱産資源管理、生物多様性などの課題などである。

メルボルン大学の地理学のスタッフは、自然地理学のスタッフの方が人文地理学のスタッフよりも多いため、気候変動や自然災害、水資源管理などに取り組むスタッフが数の上では多い。しかし、アジア・太平洋地域の経済問題、豪中関係、都市内部における民族多様化の諸問題、ジェンダー地理学、持続可能な都市などの研究も精力的に行われている。

メルボルン大学のDRMGにおける、地理学専攻の学生(Geography major students)は、自身の興味関心に近い授業を組み合わせ単位を積算していき、取得単位に基づいて環境学学士(Bachelor of Environments (Major in Environmental Geographies, Politics and Culture))、文学士(Bachelor of Arts (Major in Geography))、理学士(Bachelor of Science (Major in Geography))の3種類のいずれかの学士の学位を取得できる。また、通常の学士号取得コースより1年長く学ぶhonours、理学修士(地理学)、環境学修士、哲学修士(Master of Philosophy)、博士(PhD)などの学位も取得可能である。

#### 2) オーストラリア国立大学(ANU)

オーストラリア国立大学(The Australian National University)では、地理学のプログラムは文学部の学生向けに提供されている。ここでは、人間と環境の相互作用(human-environment interactions)が重視されており、環境問題の解決に向けた経済・社会的アプローチはもちろん、天然資源管理や生態系管理のアプローチも重視されている。

オーストラリア国立大学の地理学専攻生は、次の(a)群から最大12単位、(b)群から最大12単位、(c)群から18単位以上を取得し、合計42

表 1 地理学教室のあるオーストラリアの大学一覧.

Table 1 Geography departments in Australian Universities.

大学名 [略称]	地理学が教えられている学科等の名前 (教官組織)	URL
1 Australian Catholic University [ACU]		
2 Australian Defence Force Academy [ADFA]		
3 Australian Graduate School of Management [AGSM]		
4 ※ Australian National University [ANU]	Fenner School of Environment and Society	<a href="http://fennerschool.anu.edu.au/studying/undergrad/geography.php">http://fennerschool.anu.edu.au/studying/undergrad/geography.php</a>
5 Bond University [Bond]		
6 Central Queensland University [CQU]		
7 Charles Darwin University [CDU]		
8 Charles Sturt University [CSU]		
9 Curtin University of Technology [CURTIN]	Department of Social Sciences	<a href="http://humanities.curtin.edu.au/schools/SSAU/social_sciences/">http://humanities.curtin.edu.au/schools/SSAU/social_sciences/</a>
10 Deakin University [Deakin]		
11 Edith Cowan University [ECU]	School of Communication and Arts	<a href="http://www.sca.ecu.edu.au/school/">http://www.sca.ecu.edu.au/school/</a>
12 Flinders University [FLINDERS]	School of the Environment	<a href="http://www.flinders.edu.au/science_engineering/environment/our-school/about-us.cfm">http://www.flinders.edu.au/science_engineering/environment/our-school/about-us.cfm</a>
13 Griffith University [GRIFFITH]	School of Earth and Environmental Sciences	<a href="http://www.jcu.edu.au/ees/">http://www.jcu.edu.au/ees/</a>
14 James Cook University [JCU]	Department of Environment and Geography - Human Geography discipline	<a href="http://www.humgeog.mq.edu.au/">http://www.humgeog.mq.edu.au/</a>
15 La Trobe University [LATROBE]	Faculty of Science - Physical Geography discipline	<a href="http://www.science.mq.edu.au/areas_of_study/physical_geography">http://www.science.mq.edu.au/areas_of_study/physical_geography</a>
16 ※ Macquarie University [MACQUARIE]	School of Geography and Environmental Science	<a href="http://arts.monash.edu.au/ges/">http://arts.monash.edu.au/ges/</a>
17 ※ Monash University [MONASH]		
18 Murdoch University [MURDOCH]	School of Environmental Science & Management	<a href="http://www.scu.edu.au/schools/esm/">http://www.scu.edu.au/schools/esm/</a>
19 Queensland University of Technology [QUT]	School of Social Sciences, Discipline of Geographical & Environmental Studies	<a href="http://www.hss.adelaide.edu.au/ges/index.html">http://www.hss.adelaide.edu.au/ges/index.html</a>
20 RMIT University [RMIT]		
21 Southern Cross University [SCU]		
22 Swinburne University of Technology [SWINBURNE]		
23 ※ University of Adelaide [ADELAIDE]		
24 University of Ballarat [BALLARAT]		
25 University of Canberra [CANBERRA]		
26 ※ University of Melbourne [MELBOURNE]	Melbourne School of Land and Environment, Department of Resource Management & Geography	<a href="http://www.landfood.unimelb.edu.au/depts/srmfah.html">http://www.landfood.unimelb.edu.au/depts/srmfah.html</a>
27 University of New England [UNE]	School of Behavioural, Cognitive and Social Sciences	<a href="http://www.une.edu.au/bcss/geoplan/">http://www.une.edu.au/bcss/geoplan/</a>
28 ※ University of New South Wales [UNSW]	School of Biological, Earth and Environmental Sciences	<a href="http://www.bees.unsw.edu.au/future/geography.html">http://www.bees.unsw.edu.au/future/geography.html</a>
29 University of Newcastle [NEWCASTLE]	School of Environmental and Life Sciences	<a href="http://www.newcastle.edu.au/school/environmental-and-life-sciences/areas-of-study/geography/">http://www.newcastle.edu.au/school/environmental-and-life-sciences/areas-of-study/geography/</a>
30 University of Notre Dame Australia - The [UNDA]		
31 ※ University of Queensland [UQ]	School of Geography, Planning and Environmental Management	<a href="http://www.gpem.uq.edu.au/school-profile">http://www.gpem.uq.edu.au/school-profile</a>
32 University of South Australia [UniSA]		
33 University of Southern Queensland [USQ]		
34 ※ University of Sydney [SYDNEY]	School of Geosciences	<a href="http://www.geosci.usyd.edu.au/">http://www.geosci.usyd.edu.au/</a>
35 University of Tasmania [TASMANIA]	School of Geography and Environmental Studies	<a href="http://fcm.s.tis.utas.edu.au/scieng/geog/">http://fcm.s.tis.utas.edu.au/scieng/geog/</a>
36 University of Technology Sydney [UTS]		
37 University of the Sunshine Coast [USC]	School of Earth and Environment	<a href="http://www.see.uwa.edu.au/">http://www.see.uwa.edu.au/</a>
38 ※ University of Western Australia [UWA]		
39 University of Western Sydney [UWS]	School of Earth and Environmental Sciences	<a href="http://www.uow.edu.au/science/ees/">http://www.uow.edu.au/science/ees/</a>
40 ※ University of Wollongong [UOW]		
41 Victoria University [VU]		

※ トップ10にランキングされる大学 (<http://www.australian-universities.com/ist/>), データの出典 <https://www.iag.org.au/about-geography/links-to-geography-in-australian-universities/>

単位を取得することで、文学士の学位が取得できる。(a)群は全地球的な視点から捉えたマクロスケールの地球環境問題やオセアニア地域の概論、(b)群は気候、環境問題、人文社会環境、計量的手法、GIS、水資源、植生などの地理学関連の各論、そして(c)群は気候変動や持続可能な社会、古環境の復元、国際的な環境問題などに関わる演習や実習である(Australian National University, 2011)。

オーストラリア国立大学では、上部組織である人文社会、アジア・太平洋地域、経済、工学、法律、医療・環境、理学の7つのカレッジを中心に、相互に関連づけられた学部、リサーチ・スクール、リサーチ・センターらが組織化されている。かつてはリサーチ・スクールのレベルに、研究に従事する地理学者が在籍していたが、現在では学部教育を担うレベルの教育スタッフが在籍するのみである。

### 3) モナーシュ大学

1960年代に設立されたモナーシュ大学は、オーストラリアのなかでは比較的新しい大学であるが、オーストラリア国内ではトップクラスにランキングされる大学の一つである<sup>2)</sup>。地理学のスタッフは現在、文学部のSchool of Geography & Environmental Science(以下、GES)に所属している。モナーシュ大学では、地理学専攻を意味する「Geography major」の数は、必ずしも地理の研究室に所属して論文を執筆した学生数とは一致しない。

モナーシュ大学では「major」の要件は指定する8単位の科目を修得することであり、学生は入学後にさまざまな「major」をとりながら自らの興味関心を深めていく。「地理学専攻」のほかにも「社会学専攻」「心理学専攻」「会計学専攻」などをもつ「二重専攻」(double majors)も珍しくない。モナーシュ大学のGESに所属する学生数は、2006年には1,337人であったが、その後2011年には1,781人へと増加している。

筆者は、2009年3～9月まで、客員研究員としてモナーシュ大学のGESに在籍した。ここではGESを事例として、オーストラリアの大学の

地理学担当教員の研究内容、日常の研究生活、大学の雰囲気などを紹介する。

モナーシュ大学のGESは、①社会環境地理学、②GIS、③先住民の考古学、④自然地理学、⑤都市経済地理学の主要5分野で構成されている。

①社会環境地理学の分野には、モナーシュ大学Centre for Water Sensitive Citiesのセンター長でもあるレベッカ・ブラウン(Rebekah Brown)教授をはじめ、クリスチャン・クル(Christian Kull)准教授ら5人の教官が所属している。ここでは、都市の水環境、水資源管理、インド洋沿岸や太平洋沿岸地域における植生や土地利用変化とその環境への影響など、人文地理と自然地理にまたがる領域が研究テーマである。人材の国際移動も活発であり、アメリカやカナダ、北欧での勤務経験のあるスタッフや博士研究員も珍しくない。

②GIS分野には、ジム・ピーターソン(Jim Peterson)准教授とシュアン・ジュー(Xuan Zhu)講師が所属しており、ジュー講師はモナーシュ大学のGISセンター長も兼務している。この分野に所属するアカデミックスタッフはこの2名であるが、ほかに日本の大学の技官にあたるような技術スタッフがおり、学生や大学院生がGISを学ぶ際のサポートにあたっている。

③先住民の考古学の分野は、2007～2009年にかけてオーストラリア考古学会の会長を務めたイアン・マックニーヴン(Ian McNiven)教授をはじめ3人のスタッフから構成されている。この分野は、考古学(archaeology)の名称が使われているが、実際の研究内容は歴史地理学や文化人類学に近い。このグループの主要な研究テーマは、海岸付近の先住民族の過去の居住特性の分析や、パプアニューギニアやトレス海峡諸島周辺における過去の文化的交流の調査などである。

④自然地理学は現在5名のスタッフからなり、森林域における水収支や二酸化炭素収支を専門とするジェイソン・ベリンガー(Jason Beringer)教授、地形学が専門のデイビッド・ダンカーリー(David Dunkerley)准教授、エルニーニョをはじめ気候変動解析の第一人者であるネヴィル・ニ

コラス (Neville Nicholls) 教授, オーストラリアの乾燥地域の気候研究で著名なナイジェル・タッパー (Nigel Tapper) 教授らを擁している。2008～2009年の教室改組により, 自然地理学グループの大半のスタッフは理学部の建物へと拠点を移した。

⑤都市経済地理学の分野は, 多くの研究スタッフの興味関心が集まる特徴がある。最も活発に研究業績を上げているスタッフの一人, ハリプリア・ランガン (Haripriya Rangan) 准教授を中心に, メルボルン大学の研究者らと共同で「政治経済学研究グループ」(Political Ecology Research Group) を立ち上げ, オーストラリア, 東南アジア, 南アフリカなどの地域を事例として, 政治, 経済, 貿易などのテーマに加え, 貧困の問題にも積極的に研究関心を寄せている。

このように, GESのスタッフの研究内容は, 自然地理から人文地理まで幅広い分野に及ぶにもかかわらず, スタッフ間のコミュニケーションがよくとられている。オーストラリアの大学ではごくあたり前の習慣であるが, 毎日午前10時半前後になると, メールボックスやソファとともに冷蔵庫やコーヒーメーカーが置かれたコモンルームに人が集まりはじめ, 30分～1時間程度かけてモーニング・ティーを楽しむ。もちろん, 授業や会議があったり, 急ぎの要件のある場合はこの限りではないが, 筆者のみたところ, 毎日多くのスタッフが入れ替わり集まって談笑していた印象がある。アカデミックスタッフのみならず, 事務官や博士研究員, さらに筆者のような客員研究員の異動があれば, このモーニング・ティーの賑やかな場が, オフィシャルな挨拶の場にもなる。スタッフの誕生日や特別な記念日などには皆でお金を出し合ってケーキが登場することも多々あった。

また, もう一つのコミュニケーションの場としては, 1か月に1～2回のペースで, 昼休みを使ってランチタイムセミナーを行っていることがあげられる。ここで, 各自が取り組んでいる最新の話題をざっくばらんに話題提供し, 自然地理も人文地理も分け隔てなく意見交換を行う。例えば, 森

林管理や野生生物の保護管理に関する話題提供があれば, 気象分野の研究者が近年の極端な干ばつの影響を質問したり, あるいは都市に関心をもつ研究者が, 郊外の森に近接した住宅地におけるブッシュファイヤーの危険度について質問をする。こうした自由な雰囲気は, 自然地理と人文地理の垣根を越えた共同研究を生み出す原動力にもなっていると印象をもった。こうした, 現代的に要請の高い分野の研究者が多く在籍し, 自然地理と人文地理の垣根を越えた実践的な学びが展開されていることは, 同大における近年の地理学専攻学生の増加の一因と考えられる。

また, 多文化社会を反映するように, スタッフやほかのメンバーの出身国も多様であった。例えば, インド出身のランガン准教授は, インドの大学を卒業した後, アメリカ・カリフォルニア大学のロサンゼルス校で修士と博士の学位を取得し, 同大学パークリー校で博士研究員を2年間務めた後, メルボルンにあるRMIT大学の講師として着任。その後, モナーシュ大学に移籍して現在に至っている。もともと英語圏の大学では人材の流動性が高いといわれているが, オーストラリアの大学ではアメリカ, カナダ, イギリス, インド, そしてシンガポールとの間の研究者の異動はもとより, 博士研究員や客員研究員の受け入れ先も多様である。さらにまた, 卒業生についても地元の市役所や州政府, 統計局などに多く就職しており, メルボルンを中心に人材のネットワークができていく点も印象に残った。

このように, オーストラリアの大学において地理学が比較的人気の高い実践的な学問として認知されている背景には, 大学に入学以前の中等教育における地理の扱いにも特徴があると考えられる。この点については, 次章で検討する。

#### IV. 中・高校における地理の教科書の特徴

ここでは, オーストラリアの中学校・高等学校で使われている地理の教科書の内容をとりあげ, オーストラリアの中等教育における教科としての地理の重要性を紹介する。中学 (Secondary School) で学ぶ地理のワークブックとして『Skills

表 2 オーストラリアの中学・高校における地理のワークブック『*Skills in Australian Geography 2nd Edition*』の学習内容。

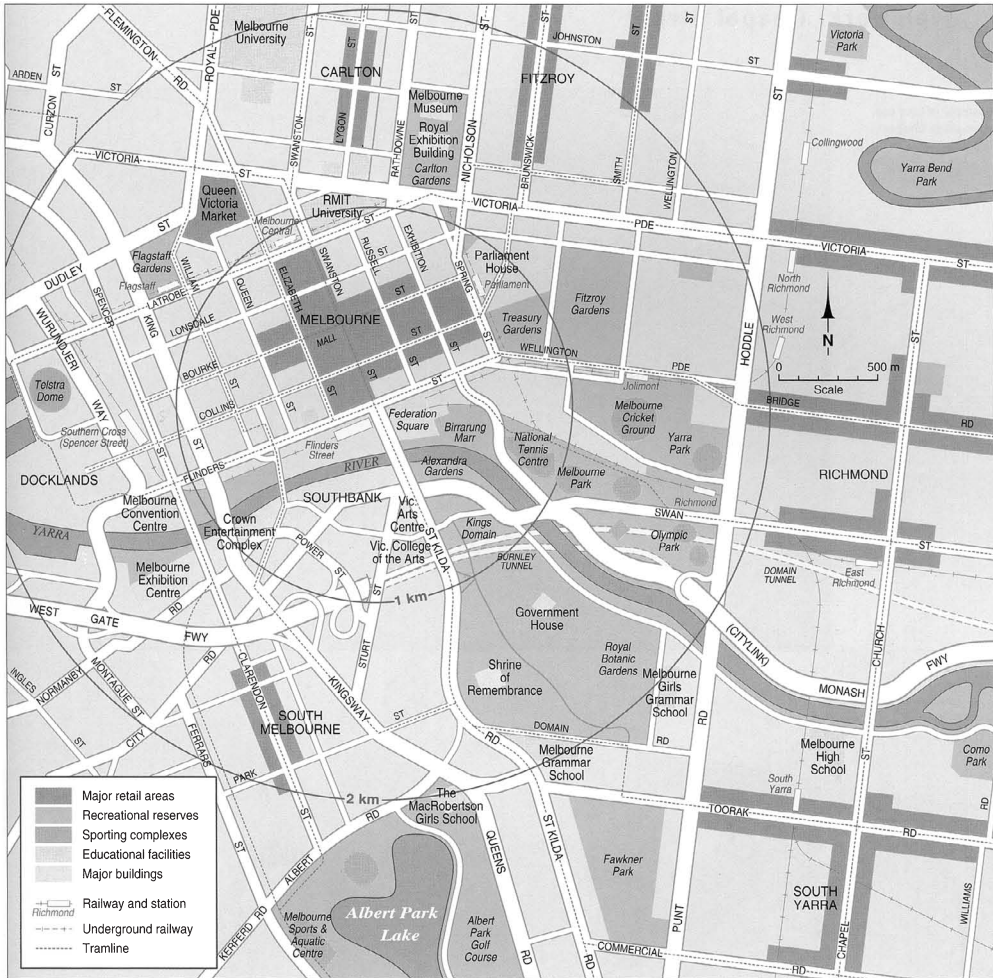
Table 2 Contents of “*Skills in Australian Geography 2nd Edition*,” a geography textbook used in secondary schools.

第一節 (pp.2-28)	地理の基礎的スキル (Geography skills bank)
1.1	地図
1.2	縮尺
1.3	緯度・経度, 時差
1.4	方角, 方位, 象限
1.5	標高
1.6	地形の特徴
1.7	地形図の読図
1.8	航空写真, 衛星写真
1.9	フィールド・スケッチ
1.10	気候グラフ, 気候地図
1.11	グラフ
1.12	主題図
1.13	統計の利用
第二節 (pp.29-69)	地理的スキルを使ってみよう
2.1 ~ 2.20	地形図を使ったワーク (首都・キャンベラ, 観光地, 都市再開発, 農業地域, 工業地域, 鉱業地域など)
第三節 (pp.70-89)	オーストラリア地理の主要テーマ
3.1	オーストラリアの国土の位置
3.2	オーストラリアの地形と砂漠
3.3	オーストラリアの気候
3.4	自然災害
3.5	オーストラリアの植生
3.6	オーストラリアの人口
3.7	オーストラリアの先住民
3.8	オーストラリア人の居住地
3.9	経済活動と雇用
3.10	観光産業の発展
解答 (pp.90-92)	

Kleeman and Peters (2007) により作成.

in *Australian Geography 2nd Edition*』をとりあげる (Kleeman and Peters, 2007)。このワークブックは、7～10年生（日本の中1～高1）を対象に書かれたものであり、地図やグラフを用いた地理的スキルの習得に主眼が置かれていることがわかる（表2）。第一節で扱う「地理の基礎的スキル」では、小学校で学んだ個々のスキルを、詳しい解説を通して確実に習得することを目指している。第二節では、オーストラリア国内から首

都、観光地、都市再開発、農業地域、工業地域、鉱業地域などを含む20か所の事例が選定されている。加えて、各項目について約30の質問が「Activity」として設定され、地形図の読図を通してそれらの設問に答える形式がとられている。第三節ではオーストラリア国内の今日的な課題をより深く掘り下げる内容になっている。小学校でも扱った気候や地質の特徴、生物的な多様性、先住民の歴史、アジア・太平洋地域への接近



## ACTIVITIES

1. Use figure 3.4.19 and a street directory to assess:
  - a. any *spatial associations* that may be evident between the *location* of the strip-shopping precincts identified in the introductory paragraph, and the *distribution* of different types of public transport; and
  - b. the *location* of the nearest *regional* shopping centre, such as Chadstone, Southland, Northland and Eastland, from these precincts.
2. Suggest reasons to explain the attraction of these strip-shopping precincts for shoppers, by identifying the differences that might be evident between them and a larger *regional* shopping complex.
3. Study the images in figure 3.4.20 on pages 194 and 195.
  - a. Describe the nature of the resource;

b. Identify the geographic characteristics of the resource commenting on:

- the variety of land-use types,
- the width of the street,
- the width of the street frontages,
- the architectural design of the buildings and their possible age of construction,
- the heights of the buildings,
- the intensity of the development,
- evidence of the recycling of old buildings for a more modern function,
- the availability of car-parking spaces,
- accessibility by public transport,
- the range of goods and services on offer,
- the area's potential attraction for teenagers and young adults, and
- the possible cost of goods and services on offer.

ABOVE  
Figure 3.4.19  
The location of inner-city shopping strips

出典 Pask, R. (2007)

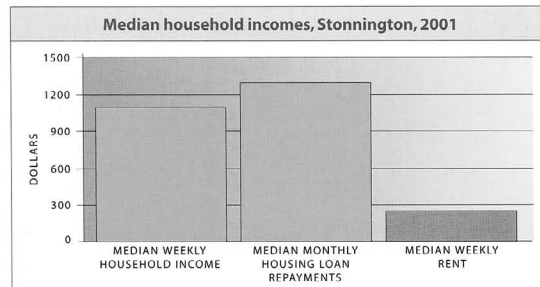
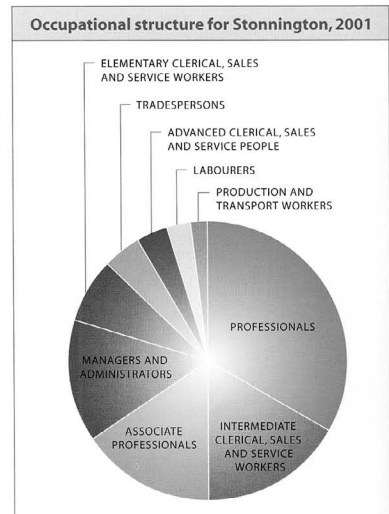
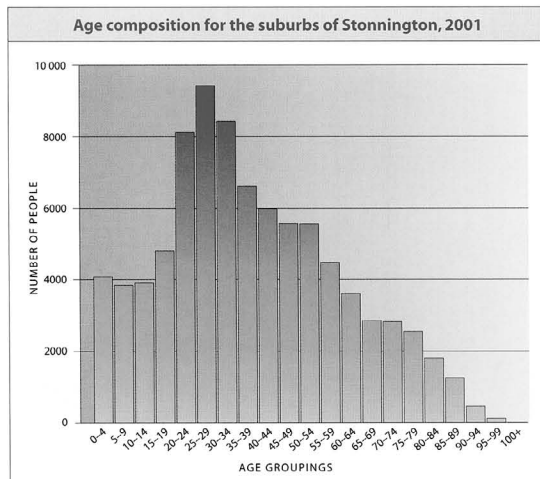
図 2 研究対象地域における商業地域の分布。

Fig. 2 Distribution of commercial precincts in the study area.



## Fieldwork: Chapel Street

Monthly housing-loan repayment, Stonnington, 2001											
Dollars	1-199	200-399	400-599	600-799	800-999	1000-1199	1200-1399	1400-1599	1600-1799	1800-1999	2000+
Dwellings	86	175	381	484	567	670	625	471	401	245	1756



**Housing types in Stonnington and Melbourne, 2001**

	Stonnington	Melbourne
Percentage of family households	55	73
Percentage of lone-person households	36	23
Percentage of private dwellings that are separate households	34	82
Percentage of private dwellings that are flats, unit or apartments	39	9
Percentage of private dwellings that are semi-detached, row or terrace houses, or townhouses	17	8

Figure 3.4.21  
Sample data for  
the socio-economic  
level of the City of  
Stonnington



出典 Pask, R. (2007)

図 3 フィールドワークのまとめの例。

Fig. 3 Example of fieldwork report conducted in Chapel Street, Melbourne.

(engagement) といった課題が、地図やグラフの読解、「Activity」を通じてとりあげられている。

さらに、高校レベルの教科書として紹介する『*New Perspectives VCE Geography Units 1-4*』の内容は、かなり高度で、かつ専門的な印象である (Pask, 2007)。この教科書は大きく4部構成をとり、第一節では自然地理、第二節では人文地理的な課題が系統的に示された後、第三節では水資源問題や都市問題などを事例としたフィールドワークがとり扱われている。例えば、メルボルン郊外 (都心から約5 km) のお洒落なショッピング・ストリートであるチャペル・ストリートを事例地区とするフィールドワークを解説した章では、準備から最後のまとめに至る過程を詳細に例示している。はじめに、調査地の選定のために、まず市域全体に相当する広域の地図を作成して商業環境の変化を概観した後 (図2)、実際に郊外の路面店や買い物客を対象とした聞き取り調査を実施し、その内容を図表や地図としてまとめる (図3)。オーストラリアでは、こうした具体的かつ実践的な活動が、高校の地理の内容にかなりの分量盛り込まれている特徴がある。なお、最後の第四節ではグローバル化の進展に伴う環境問題や輸出入の課題、国際的な人口移動に関わる諸問題などが扱われている。

筆者は地理教育の専門家ではないため、この章で紹介したオーストラリアの地理をめぐる教育内容の記述は適切ではないかもしれない。しかし、誤解を恐れずに大まかな印象を述べれば、日本の中学レベルの内容はオーストラリアの小学校高学年で、また、日本の高校レベルの内容はオーストラリアの中学1~2年あたりで教えられている。高校用の教科書として紹介した『*New Perspectives VCE Geography Units 1-4*』のように、高校地理の授業では、生徒自身が調査課題を設定し、現地調査を行なった上でレポートにまとめる過程までが含まれている。これは、とすれば日本の大学において地理で卒論を書くレベルに匹敵する内容が、オーストラリアでは高校の段階で普通に扱われていることを意味する。また、オーストラリアの地理 (教育) は、小・中・高を通して、

児童・生徒に考えさせる演習形式の課題が多く設定されていたり、地図の運用能力を高める工夫が随所になされている。オーストラリアの地理教育でみられるこれらの点は、日本の地理 (教育) とは大きく異なり、先進的であるといえるだろう。

## V. おわりに

オーストラリアの大学は、留学生数や社会人学生も多く、多種多様な学生が同じキャンパスで学んでいる (堤・オコナー, 2008; Tsutsumi and O'Connor, 2011)。市役所の研究部門の職員が社会人学生として大学の地理学教室で学び、修士や博士の学位を取得する例も珍しくない。また、市役所や州政府の機関で有効に活用されているGISの担当職員のなかにも、地理学教室を卒業した者が多く存在する。本稿で紹介してきた内容は、オーストラリアの地理学のほんの一面にすぎないかもしれない。しかし、本稿で紹介した内容をみるだけでも、オーストラリアでは地理学は広く社会全般に受け入れられていると実感できる。オーストラリアでは小学校の高学年から科目として「地理」が登場し、その内容は基礎的なスキルの習得から、学年が上がるごとに、隣国であるインドネシアやパプアニューギニアとの歴史的関係、現代のアジア諸国との経済的つながり、広い国土にみられる気候的、地質的、生物的な多様性の認識、塩害化、森林減少などの諸問題の解説、そして、国際的な人口移動や世界の貧困問題など、グローバルな内容へと発展していく。小学校高学年の段階から、オーストラリアの特徴をグローバルなコンテキストのなかでとらえさせるカリキュラムは、実践的な学問としての地理の社会的認知に貢献していると考えられる。

## 謝辞

本稿を作成するにあたり、モナーシュ大学のDr. Xuan Zhu先生および茨城大学の葉 倩瑋先生からオーストラリアの大学に関する貴重な情報をいただきました。記して感謝申し上げます。また、本稿の脱稿後、III章3)で紹介したモナーシュ大学のジム・ピーターソン准教授がここ数年の病氣療養の後、2012年2月に

他界しました。ジムの屈託のない笑顔が目には焼き付いて離れません。謹んでご冥福をお祈りいたします。

#### 注

- 1) トップ 10 にランキングされる大学  
<http://www.australian-universities.com/list/>  
[Cited 2012/1/31]。
- 2) 前掲注 1 参照。

#### 文 献

- Australian National University (2011): Study@ANU 2011.  
<http://studyat.anu.edu.au/2011/majors/ARTSMGEOG/overview.html> [Cited 2011/9/30].
- Institute of Australian Geographers (2011): Links to Geography Departments.  
<http://www.iag.org.au/about-geography/links-to-geography-in-australian-universities/> [Cited 2011/9/30].
- Kleeman, G. and Peters, A. (2007): *Skills in Australian Geography 2nd Edition*. Cambridge University

Press.

Pask, R. ed. (2007): *New Perspectives VCE Geography Units 1-4*. Geography teacher's association of Victoria Inc.

堤 純・オコナー ケヴィン (2008): 留学生の急増からみたメルボルン市の変容. 人文地理, **60**, 323-340. [Tsutsumi, J. and O'Connor, K. (2008): Changes in Melbourne due to the rapid increase in international students. *Japanese Journal of Human Geography (Jinbun Chiri)*, **60**, 323-340. (in Japanese with English abstract)]

Tsutsumi, J. and O'Connor, K. (2011): International Students as an Influence on Residential Change: A Case Study of the City of Melbourne. *Geographical Review of Japan Series B*, **84**, 16-26.

[http://www.jstage.jst.go.jp/article/geogrevjapanb/84/1/84\\_16/\\_article-char/ja/](http://www.jstage.jst.go.jp/article/geogrevjapanb/84/1/84_16/_article-char/ja/) [Cited 2012/1/31].

University of Melbourne (2011): Study Geography.  
<http://www.land-environment.unimelb.edu.au/geography/> [Cited 2011/9/30].

(2011 年 10 月 24 日受付, 2012 年 3 月 21 日受理)